

ふれあい東京

第195号 令和3年4月30日発行
公益社団法人 東京のあすを創る協会
〒104-0028
東京都中央区八重洲
二丁目11-7 6階
電話 03(3272)0213



新型コロナウイルス感染の収束がまだ見えない中で 事務局長 藤本龍夫

新型コロナウイルスの感染が拡大している中、4月25日、東京では3度目となる緊急事態宣言が適用されスタートしました。ワクチン接種も始まりましたが、第4波の感染拡大に際して、またもや自粛生活を余儀なくされることとなります。そのような状況下で、1年延期されたオリンピック・パラリンピックの開催も間近に迫っていますが、生活学校、生活会議等の地域活動、イベント等の開催も多くがまた実施できずにいます。東創協の事業も、昨年度に続き、新年度に入っても停滞を余儀なくされています。

この厳しい状況の中で、医療機関等の逼迫、飲食・観光業をはじめとする経済の長期にわたる低迷など、社会全体が疲弊の度がさらに増えています。東創協の最寄りの有楽町駅から見える東海道新幹線の車輦にも一時戻ったように見えた乗客の姿が、まためっきり少なくなっています。鉄道のみならず、航空便も国際線・国内線ともに多くの欠航便が出ています。

このような状況は、今後改善されるものと思いますが、今般のコロナ禍が、今後の社会にどのような影響を残していくのか、私たちの生活がどう変わるのかを考える必要があります。一例をあげれば、今、リニア新幹線の一部工事が南アルプストンネルの掘削をめぐりストップしていますが、リモートによる業務が急速に浸透していく中で、莫大な工事費、膨大な電力を使ってまで、超高速での移動が本当に必要なのか。地球温暖化対策としての脱炭素（カーボンゼロ）に向けての取組みに逆行するものになる、という見方も出てきています。待ったなしの脱炭素に向けて、世界では電気自動車への移行が加速化し、近距離での航空機利用の制限などが進められようとしています。コロナ後の社会の変容について、今がまさに考え時です、転んでもただでは起きないためにも…。



今年も桜の開花を期待して
新宿御苑に行きましたが…

◇令和3年度 事業計画・予算について 承認されました令和3年度の事業計画、予算の概要です。

1 事業計画～運動推進について

令和2年度はスタートからコロナ禍により、事業の多くが中止せざるを得ませんでした。令和3年度においても、まだまだ新型コロナウイルス感染の影響が考えられますが、前年度の目標を引き継ぎ、またコロナ後を見据えて事業の展開を図ります。令和3年度は、次の項目に重点を置き運動を推進します。

- 1 安全な・活力あるまちづくり、子育て環境の整備、高齢者の医療・福祉や健康づくり、自然環境の保全・学習、省資源・省エネルギー・資源再利用、食の安全確保など多岐にわたる課題に取り組んでいる団体に対して新たな支援を行う。
- 2 広報活動を一層充実して、運動の普及・発展を図る。

- 3 東京都内全区市町村との連携を図り事業を推進する。

2 予算 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで(単位:円)

項目	予算額
経常収益	28,149,000
財産運用益・会費等	383,000
東京都補助金等	27,666,000
経常費用	28,066,000
事業費	25,338,300
管理費	2,727,700
当期経常増減額	83,000
一般正味財産期末残高	14,444,496

◇活動紹介 令和2年9月以降に行われた、様々な団体の活動を紹介します。



○生活会議連絡協議会 東京のまちづくり運動の輪を広げる集い

令和2年10月22日(木)38名が参加して東村山市・サンパルネで開催されました。第1部では、①「玉川上水の自然活動保護とホテルの復活」(玉川上水の自然保護を考える会)、②「明るく元気な 仲間が集う」(熟年いきいき会)の2団体から活動報告がありました。第2部では、立川市立第六小学校の溝越勇太主任教諭が、「まちを知り、まちに愛着をもち、まちに貢献できる まちの担い手を育てる」をテーマに、同小の「湯つたりあったか羽衣プロジェクト」についての講演がありました。これは2017年度から実施され、総合的な学習の時間を使って銭湯の魅力を学ぶというものです。学習を進める中で児童は、住民の交流の場となってきた銭湯が年々減少していることを知り、「銭湯の魅力を伝えたい」と、銭湯がテーマの動画制作や学芸会での演劇、銭湯絵師の協力を得て、富士山を描いた手ぬぐいの製作や販売、多摩都市モノレール車内や駅構内でのポスターや作品の展示などをしてきたこと、そしてこの授業を通して児童の変化や成長の様子についての話しがありました。

○生活学校連絡協議会 講演会

令和2年11月16日(月)36名が参加して東京都消費生活総合センターで開催されました。本年は対話集会に代えて、一般社団法人JEANの小島あずさ事務局長による「プラスチックによる海洋汚染～わたしたちにできること」のテーマでの講演が行われました。海洋ごみの種類と数量の今と昔の違い、海流や風等によるごみの漂流や漂着、日本各地のごみだらけの海岸の様子、ごみによる動植物への影響や被害、プラスチックごみの問題、近年のマイクロプラスチックによる新たな海洋汚染などについて、スライドを交えて話されました。ごみ問題の解決のためには、社会の仕組みやルールの変革もさることながら、「ひとりひとりの行動が変わることが重要」との話しがありましたが、参加者も大きく頷いていました。



○大田区「区長を囲む意見交換会」

令和2年12月21日(月)の午後、大田区生活学校連絡協議会による毎年恒例の「区長を囲む意見交換会」が、大田区池上会館を会場として開催されました。新型コロナウイルス感染拡大もあり開催が危ぶまれましたが、矢野会長はじめ関係者の尽力と松原区長の配慮もあり無事に開催されました。松原区長からは、現下の厳しい新型コロナウイルス感染拡大に対する区の対策、そして新年度の予算方針について、会員の不安の解消に役立つような丁寧な説明がありました。さらに、区の担当課長の出席もいただき、区政に関する質疑応答も行われました。

○北区「あすか生活学校見学会」

令和3年3月25日、北区のあすか生活学校の皆さんが、江戸時代より桜の名所で有名な飛鳥山公園にある北区飛鳥山博物館内に設けられている「渋沢×北区晴天を衝け 大河ドラマ館」の見学会が開催されました。当日は、文字通りの満開の桜の下という絶好の日和でしたが、飛鳥山公園の地に住んでいた渋沢栄一の偉業に触れつつ、現在放映中の大河ドラマ「晴天を衝け」で使われた衣装なども興味深く見学することができ、しばしコロナ禍から解放された時間を過ごせたようです。



○田丸副会長が叙勲



令和2年11月3日(火)発表の秋の叙勲で、本協会の田丸せつ子副会長・東京都生活学校連絡協議会会長が、「旭日双光章」を受章されました。おめでとうございます。



○渋谷区生活学校連絡協議会

昭和42年に設立された渋谷区的生活学校連絡協議会が令和2年3月、52年の歴史に終止符を打ちました。4月に解散会を予定していたところ、新型コロナウイルス感染拡大のために中止を余儀なくされましたが、解散特集号は10月に発行されました。今後は、それぞれの生活学校の活動に期待したいと思います。

ホームページが新しくなりました



新型コロナウイルス感染拡大が心配される中、地域での活動、イベントの多くが中止となっています。東創協としても、それらの活動、イベントを紹介することができていません。この機会を逆に生かすために、かねてより懸案だったホームページの刷新を図ることといたしました。従来のホームページは、内容の更新などについては外部に依頼していましたが、掲載情報のタイムラグなども生じておりました。今回リニューアルして開設したホームページは、自前で作成しアップいたしました。内容的にはまだ発展途上ではありますが、今後は随時更新を図りつつ充実させていきますので、ご覧いただければ幸いです。

ホームページアドレス: <http://www.main.tosokyo.info>

◇コロナ禍の中で～活動報告書から

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの活動団体では事業の延期、中止など自粛を余儀なくされましたが、困難に直面して様々な工夫もされていました。その様子を、嘆きとともに「活動報告書」からピックアップしてみました。

生活学校	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の中においての活動だったため、十分に成果をあげることができなかった。 ○コロナ禍の中でのドキドキの学習会、講演会になった。 ○コロナ禍で、集まることを自粛していたが、話し合うことで元気を取り戻したり、運動不足の解消になるので、話し合いの会を多く実施した。なかなか会えないことで生活学校のつながりの意義を再確認した。 ○三密を避け感染予防を徹底して活動してきましたが、一年無事に過ごせたことに感謝です。改めて、人と話し語らうことの大切さを感じ、生活学校で多くの友人と共に学べたことのありがたさを痛感しました。 ○地域活動ができず、コロナに打ちのめされた感じの一年でした。 ○コロナ禍による会場の都合により、イベントができなかった。 ○コロナ禍だったがゆえに、外遊びへの関心が高まった。 ○高齢のメンバーが多いことから、健康第一を考えた。 ○活動が制限され、イベント参加もできず残念な一年だったが、メンバーの中から感染者が出なくて幸いだった。
生活会議	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍によりイベント中止になったが、スキルアップ事業として研修会を実施した。 ○感染防止対策を施し、一部を除き事業を実施した。 ○緊急事態宣言により活動や会議は大幅に制限や縮小せざるを得なかったが、参加希望は多く、今後につなげるように工夫していきたい。 ○地域の交流会やイベントがすべて中止になったが、パネル展示など新たな活動の展開ができた。 ○感染症蔓延の中、必要な活動は継続して行った。各種会議はオンライン化し、感染防御を徹底したおかげで一人の感染者も出さなかった。 ○ZOOM会議・ミーティングでコロナ対策を上手に乗り切れた。 ○コロナ禍で活動場所が使えなくなり、思ったような活動ができなかったが、SNSで連絡を取り合い、ZOOM遊び場などを行った。 ○公共施設の厳しい制約の中で、三密にならない行事のみを行った。それでも、感染しないかと毎回びくびくしながらの実施でした。 ○公共施設が使えなかったために、あまり活動できなかった。 ○コロナ禍で普段より不安を感じる中、回数は例年より少なかったものの、参加された皆さんのストレス軽減に役立ったと考えている。 ○コロナ禍の中でも、昆虫調査・水草調査等を継続して実施できた。 ○川掃除の動画をオンライン配信した。

◇「かんじゅく座」(シニア劇団)公演を見ました

60歳以上の熟年男女によるアマチュア劇団「かんじゅく座」が、令和2年11月、練馬区大泉学園にある東京都社会福祉事業団が運営する石神井学園で公演をするとのことで、おじゃまして拝見させていただきました。

かんじゅく座の団員は、60歳以上という限定がありますが、女性が多く、仕事をしている方、主婦など演劇好きで構成されています。劇団の目的は、シニアに「演劇で元気になってもらう」ことです。「劇団は楽しい。セリフとストレッチ体操で、介護予防にもなる。」「仲間と一つのを創り上げる劇団公演は、人から元気をもらえて楽しいし、達成感が得られる。」「自分とは縁のなかったバーのマダム役をやったときが一番楽しかった。役作りのためにバーにも出かけてみた。ミュージカル“ねこら！”の役作りで都庁やホームレスも見て回った。」「車椅子になったら、その役を用意する」という主宰者の声に、続けられる限りは続けたいと思う。」

劇団主催者の鯨エマさんは、「シニア劇団で1回でも舞台を経験すると、観客の反応が好評でやめられなくなる(人前で笑いをとることの快感)。舞台表現をするうえで、自分の長い人生経験が無駄にならない。」とおっしゃっています。そんなシニアパワーにあふれた劇団公演を見た子どもたちは、その迫力にたじろぐものの目を輝かせて舞台を見入っていました。劇団員の真剣な演技に力をもたらしたのは間違いありません。



ミュージカル「ねこら！」の一場面



迫真の演技に見入る子どもたち

◇コロナ禍の中で～東創協も断捨離してみました…



NHKの朝の連続テレビ小説「おちよらん」をご覧になっていましたか。このドラマは、大阪生まれの女優・浪花千栄子さんの生涯を下敷きにしたものですが、この浪花千栄子さんは女優として活躍された方ですが、本名が南口キクノ(なんこうきくの→軟膏効くの)だったからか、オロナイン軟膏の看板広告に起用されていました。全国至る所に、浪花千栄子さんが軟膏を持って微笑みかけている広告看板が掲示されていたのを記憶されている方もいるかと思います。昭和レトロな感じがする、いわゆる「ホーロー看板」です。今は、ほとんど見かけることもありませんが、人里離れて朽ち果てかけた民家の壁に見つけることがあります。さて、左にある黄色い看板は、東創協の事務所で長い間眠っていて、断捨離の大掃除をした時に出てきたホーロー看板です。

「東京都 新生活運動実践地区」と墨書され、赤字で「町を美しくしよう 集会の時間を守ろう」というキャッチフレーズもあります。大きさ45cm。昭和30年代、新生活運動が全盛時代のものと思われます。キャッチフレーズから逆読みすると、まだ、町にはゴミが目につき、集会を開いても時間通りに集まらなかった時代だったのでしょう。もうさすがに、掲示されているのを見ることはできないでしょうから、貴重な記録です。



そして、これまた大掃除で出てきたのが、右の写真の16ミリの映画のフィルムです。タイトルを見ると「すすみゆく町づくり」「住みよい街づくりのために」「お母さんが作ってくれた」となっています。身近に映写機もありませんので、中身を見ることはできませんが、とりあえず断捨離せずにこれも保管を続けることにしました。

▽ひとこと 東京のあすを創る協会の機関紙「ふれあい東京」は、9月と3月の年2回の発行ですが、前年度の3月号に続いて、新型コロナウイルスの感染が広がりを見せている状況の中で、またまた遅れての発行となってしまいました。ご容赦ください。各団体の活動がままならず、「コロナに打ちのめされた感じの一年でした」との嘆きを聞くことも多いのですが、「一年無事に過ごせたことに感謝です」に膝を打ちます。そうなのです、人の命に替えられるものはありません。「命あつての物种」とは、良く言ったものです。そんな大事な命を、危険に晒して働かざるを得ない、医療従事者はじめ、社会で無くてはならない仕事をしている人たち(エッセンシャルワーカー)にあらためて感謝です。できれば、昨年に続いて感謝を込めたブルーインパルス飛行を見せてあげてください、お願いします。(竜)